

令和6年度 小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名

中学校 総則

改善の重点

学校の教育目標の実現に向け、カリキュラム・マネジメントの三つの側面を通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校の教育活動の質の向上を図っていくこと。

1 設定理由

中学校学習指導要領第1章第1「中学校教育の基本と教育課程の役割」において、「4 カリキュラム・マネジメントの充実」として次のように示されている。

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことに努めるものとする。

学校の教育目標を実現するためには、全教職員が適切に役割を分担し、相互に連携することが必要である。その上で、生徒の実態や地域の実情、指導内容を踏まえて効果的な年間指導計画等の在り方や、授業時間や週時程の在り方、加えてその評価や改善方策について、校内研修等を通じて研究を進めていくことが重要である。

各学校におけるカリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組について、令和5年度大分県公立小・中学校等における教育課程の編成・実施状況調査から、次のような現状があることがわかる。

	小学校	中学校
ア 資質・能力の三つの柱を踏まえて学校の教育目標を明確にし、全教職員で共有した	97.6%	99.2%
イ 具体的な児童生徒の姿をイメージして、目指す児童生徒の姿を示した	95.6%	96.6%
ウ 目指す児童生徒像を実現するため、育成を目指す資質・能力を焦点化して示した	91.1%	94.1%
エ 各種調査等や児童生徒の実態を踏まえ、教育課程の評価・改善をした（予定である）	79.0%	72.9%

アイウの目標設定に関する項目については、小中学校ともに高い割合となっているが、エについては、小学校 79.0%、中学校 72.9%で低い現状がある。各学校においては、特に教育課程の実施状況の評価・改善に留意し、カリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組を推進する必要がある。

2 研究を進めるに当たって

(1) 実践に当たっては、以下の点に留意すること。

- ①学校の教育目標の実現に向け、教科等横断的な学習を充実させるための教育課程の編成の工夫や配慮すべき点について明らかにすること。
- ②学校の教育目標とのつながりを意識した上で、教育課程の評価・改善を確実に行うためのPDCAサイクルの構築に関する工夫や配慮すべき点について明らかにすること。
- ③教育課程の実施に必要な人的、物的な体制の確保及びその改善における工夫や配慮すべき点について明らかにすること。

(2) 参考とすべき資料

- ①「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの手引き」大分県教育委員会 令和3年3月
- ②「語り合おう！進めよう！わたしたちのカリキュラム・マネジメント ～カリキュラム・マネジメントの手引き活用ガイド」文部科学省 令和6年2月